

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和五年二月度 入賞句一覽

投句数 五百十七句

持選

名和 永山 選



好きな娘を狙ひふんはり雪礫

兵庫県豊岡市 辻井 一路

季語「雪礫」（ゆきつぶて）は雪の塊である。雪合戦でもしているのである。目の前にいる好きな女の子をめぐって、「ふんわり」と投げたというのである。中七の「狙ひふんはり」は、雪礫だけのふんわりだけでなく、作者の彼女への想いをふんわりと乗せているようにも読み取れる。「切れ」による想像の膨らみである。

弓始びたりと据はる乙女の眼

福井県敦賀市 山田 美千代

初稽古であろう。道着をつけ、袴姿の乙女が眼前にいる。中七の「びたりと据はる」という措辞が、弓道で重要な的への集中力をうまく表している。「目が据わる」とは、一事に集中し、精神を集中したときに使われるが、普段のこの乙女はきつと可愛らしい瞳を輝かせているのである。

払暁の光に揺るる薄氷

愛知県尾張旭市 小野 薫

「払暁」は、夜明けの空が白み始めた頃を言う。東の空がゆっくり明けてくる時の「薄氷」の変化をとらえた句。しっかりと観察すると、少しの明かりが揺れ動くように見える。まさに「光に揺れている」様を観察することができる。対象物をしっかりと観察した結果の句である。私の選者吟では、「うすくれなる」の色の変化を観察した。

秀逸

戸惑へる巫女の裳裾や春一番

愛知県豊田市 城山 悠水

雪解川水といふ水急ぎけり

養老郡養老町 佐藤 咲楽

無人駅出ればふるさと梅香る

養老郡養老町 山田 順子

数の子を嫁に勧むる父と母

大垣市 田口 貞善

六地藏慈顔そのまま山眠る

大垣市 鶴田 信子

ポケットに手袋あづけ弾む手話

養老郡養老町 田中 紫香

殷殷と陣屋跡地に除夜の鐘

各務原市 桑原 緑

笑ひには国境はなし焚火の輪

大垣市 村田 通夫

席替えやセーター似合う娘のとなり

愛媛県松山市 久保田 凡

寒中やまだ失恋の後遺症

広島県福山市 中常 かつたろー。

入選

狛犬の尻尾隆々春を待つ

福井県敦賀市

山田 美千代

円陣に初競りの声轟きぬ

岐阜市

後藤 三恵

山茶花の花びら散りて音もなく

大垣市

石垣 珠泉

七曜をつなぐ三寒四温かな

不破郡垂井町

児玉 信子

初春や風に音うむ絵馬の例

不破郡垂井町

久保田 紘義

いつもの歩幅一月の風の中

東京都世田谷区

関戸 信治

夢多き旅路の果てや冬銀河

大垣市

北島 暁子

降る雪や仁王の草履湿りをり

大垣市

松岡 みつ

松籟をきく早春の湖畔かな

大垣市

白井 秀子

水仙を活けてととのふ奥座敷

大垣市

岡田 あや子

朝焼けのきのふと違ふ大旦

大垣市

高津 喜久子

小さき手に小さき袋のお年玉

京都府宇治市

八田 弥須子

立春の上枝に結ぶみくじかな

大垣市

立川 昌子

隠し事ありそな二人春兆す

安八郡神戸町

大槻 恭子

春泥を蹴散らして行く小さき靴

大垣市

北浦 典子

鈍色の山迫りくる久女の忌

大垣市

平野 きぬよ

数へ日や糶声嘎れし魚市場

三重県四日市市

井戸 康子

ウンと云ふばかりの夫と日向ぼこ

大垣市

吉田 てるみ

風音か樹々の寝息か冬ざるる

三重県四日市市

後藤 允孝

冬麗の鯉は無音の言葉吐く

静岡県藤枝市

山本 紫苑

選者吟

薄氷のうすくれなゐの夜明けかな

永 山

一般の部

